JICA シニアボランティア 千葉

SVニュース千葉 第23号
2015年9月14日発行
千葉県JICAシニアボランティアの会
sakai_japan_tunisia_0511@yahoo.co.jp

本号目次

公開講演会 講演要旨	2
通常総会報告	3
帰国報告会	4
出前講座報告	5
特集　出前講座 3年間の歩みと 新たな展開に向けて	6-7
任国事情	8-10
フェスティバル報告	11
会員随想	11
お知らせ、他	12

第19回公開講演会および通常総会を開催

5月9日午後、千葉市国際交流プラザで公開講演会を開催し、千葉県総合企画部国際課副課長　加賀谷　美弥子氏に「千葉県の国際化施策について」と題してご講演いただきました。講演会に続いて平成27年度通常総会を開催しました。

第19回公開講演会は講師に加賀谷　美弥子氏を迎え、JICA東京国際センターとの共催、千葉県と千葉市の後援により開催されました。加賀谷美弥子氏は、国際化が進展している千葉県の現状、オリンピックと将来に向けての施策を述べられました。講演要旨は本誌2面に掲載しています。講演会には多数の市民と弊会会員が参加し、活発な質疑応答がありました。

同じ会場で14時40分より千葉県JICAシニアボランティアの会平成27年度通常総会が行われました。出席会員30名、委任状提出33名により充足率67.7%で総会が成立し、開会が宣言されました。会長の挨拶の後、議事に移り、平成26年度の活動報告、会計報告及び会計監査報告が行われ、次いで平成27年度活動計画案、予算案が上程され、夫々原案どおり承認されました。最後に平成27年度の役員選出が行われました。新会長の挨拶、役員人事、会の重点活動などの詳細は本誌3面に記載しましたのでご覧ください。

平成27年度通常総会会場

特別寄稿「通訳ボランティアの養成について」　千葉県総合企画部国際課長　鎌形 悦弘

本年４月に千葉県総合企画部国際課長に就任いたしました鎌形でございます。

千葉県JICAシニアボランティアの会の皆様には、日ごろより本県の国際化施策の推進に御理解と御支援を賜り、誠にありがとうございます。

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、県内の市町村においては、事前キャンプの誘致に積極的に取り組んでいます。県でも、県内大学等の学識経験者、市町村国際交流協会、それから、貴会を含めた国際協力・交流ボランティア団体等の御協力をいただきながら、検討会議を設置しました。そして、県内の外国語ボランティア等へのアンケート調査結果を踏まえ、通訳ボランティアの養成・確保及び活用促進に向けた方策の検討等を行い、本年３月、通訳ボランティアの養成目標等を定めた「通訳ボランティア養成方針」を策定いたしました。

また、本年6月には、オリンピック本大会の３競技が幕張メッセにおいて開催されることが決まったことから、通訳ボランティアの重要性・必要性は更に高まるものと予想されます。 本大会の成功は、本県の国際的な魅力を高めるとともに、国際交流の推進や将来の担い手づくりの大きな契機になると思われます。海外で御活躍されてきた人財の宝庫である貴会の皆様には、県民の国際理解の向上や、大会時における通訳等に関し、特段の御支援と御協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

通訳ボランティア研修

平成27年5月9日開催
公開講演会講演要旨

千葉県の国際化施策について

千葉県総合企画部国際課
副課長　加賀谷 美弥子

はじめに

平成26年度の調査では、千葉県内在住の外国人の方は約11万人で前年度比4.8%の増加でした。620万県民の内の約1.8%で、年々増加傾向にあります。教育や労働関係の統計調査でも外国人県民の増加状況が窺えます。

千葉県の取り組み

千葉県では、農林水産物の輸出促進、中小企業の海外進出支援、外国人観光客の誘致など、海外の活力や経済力を呼び込む事業にも力を入れていますが、今日は国際化施策の主な事業を御紹介します。取組みは3つに分けられます。

【外国人県民にも暮らしやすい地域づくり】

まず、多文化共生施策です。例えばホームページ「ちば国際情報ひろば」では、110番・119番のかけ方から夜間休日診療の案内、教育、雇用の手続きなど、基本的な情報を、日本語を含めて9か国語で提供を行っています。また、公益財団法人ちば国際コンベンションビューローと連携し、外国人テレホン相談、災害時外国人サポーター養成等にも取り組んでいます。

【国際交流・国際協力】

２つめが「国際交流・国際協力」で、主な事業としては、ドイツのデュッセルドルフ市、姉妹都市であるアメリカ合衆国のウィスコンシン州との交流事業などがあります。また、JICA「草の根技術協力事業」のスキームにより、ラオスのヴィエンチャン都で水環境改善事業も実施しています。

【世界に向けた千葉の魅力発信】

３つめの「千葉の魅力発信」の中で特長的なのは、「チーバくん大使」の事業です。毎年20名の外国人の方、留学生が多いですが、SNSを活用して自国の言語で千葉の魅力を発信してもらっています。26年度は1月までで、発信件数が440件、反響が約12,000件もありました。

オリンピック・パラリンピックと通訳ボランティアの養成

このように、様々に工夫して取り組んでおりますが、「県政に関する世論調査」で、今後特に力を入れてほしいと思う項目を選んでいただくと、「国際交流・国際協力」は、中々上位に入れません。多文化共生や国際交流に関心を持つ方をもっと増やしたい、その良いきっかけとなるのが、2020年東京オリンピック・パラリンピックだと考えています。

特に、外国の方との円滑なコミュニケーションを支援する「通訳ボランティア」への関心が高まっていることから、JICAシニアボランティアの皆様にも御協力いただき、26年度に「通訳ボランティア養成方針」を策定しました。今後、養成講座の開催や人材の掘り起こしを行っていく予定です。

おわりに

現在（5月9日）、幕張メッセがオリンピック・パラリンピックの大会本会場になる可能性が非常に高くなってきましたので、今後さらに対応の強化が図られると思います。通訳ボランティアの重要性・必要性も、高まることはあっても低くなることはありません。皆様にもぜひ、通訳ボランティアの指導者として、また国際交流の担い手として、一層の御活躍をいただければと思います。

チーバくん大使のみなさんと森田 健作 千葉県知事

平成２７年度通常総会を開催

5月9日（土）14:40～16:50、千葉市国際交流プラザ会議室で平成27年度通常総会が開催されました。

総会は及川淳一副会長の司会で進められ、冒頭に酒井國彦事務局長より本総会が成立したことの報告があり、開会が宣せられました。

先ず津田正臣会長が挨拶し、本年は戦後70年、JICA青年海外協力隊50周年の節目にあたり、日本の国際貢献に海外ボランティア活動が果たす役割を示しました。続いて来賓の方々から挨拶を頂き、議長及び書記が選任され、議案の審議に入りました。

1号議案 平成26年度活動内容、2号議案 平成26年度会計報告、3号議案 平成26年度の会計監査報告の3議案が一括で審議され、承認されました。なお、会員動向では現会員95名（内休会2名）、年度内の入会者3名、退会者2名と報告されました。

次に4号議案 平成27年度活動計画案と５号議案 平成27年度予算案が審議され、承認されました。

6号議案は規約の一部改定が提案され、承認されました。この改定により、従来は帰国後の入会が原則でしたが、新たに派遣される千葉県在住或いは出身者の入会が可能になり、当会の活動基盤が拡がり、更なる活性化が期待されます。

7号議案で平成27年度の新役員が選出されました。

以上をもって総会の閉会が宣せられ、議長・書記が解任されました。続いて来場の新会員・再派遣帰国者が紹介され、最後に新会長の挨拶があり（本ページ別コラム）、散会しました。

終了後に有志による懇親会が会場近くの「やるき茶屋」で行われ、親睦を深めました。

平成27年度通常総会でのご挨拶
新会長　酒井國彦

会員の皆様、通常総会にご出席いただきありがとうございました。またご来賓の皆様にはご多用のところご臨席いただき厚く御礼申し上げます。

私は今回の平成27年度通常総会において会長の大役を仰せつかりました。微力ながら皆様のご協力を頂き当会の発展に寄与したいと思っております。

私は、チュニジアへ2005年から2年間印刷機械の指導で赴任いたしました、アラブの春で有名ですが、政局は未だに混迷しております。任務が終了し日本へ帰国して再度実感したことは、緑がいっぱいで素晴らしい自然があるだけでなく、国土は四季がありおいしい水が豊富な事でした。

今後は、これまで行ってきた海外での貴重な体験の社会還元・社会貢献とともに、千葉県が目指す国際的に成熟した「安心・安全な文化」を持つ都市づくりにも貢献したいと思います。当会はボランティアの精神である強制されて行うのではなく自主的に人の為になる様にという精神を忘れずに、会員全体で推進できれば良いなと思います。

新任役員の紹介：

高橋 吉男　船橋市在住
職種：家畜飼育
ボランティア派遣：
2009/9～2011/9　パラオ

渡邊 要吉　船橋市在住
職種：品質管理
ボランティア派遣（2度目）：
2010/1～2012/1
エルサルバドル

新役員人事

平成二十七年度 役員
会長　酒井 國彦（千葉市）
副会長　及川 淳一（船橋市）
副会長　白鳥 貞夫（柏市）
事務局長　鈴木 伸一（市川市）
幹事　坂出 直哉（千葉市）
幹事　村田 淑子（東京都江東区）
幹事　渡邊 要吉（船橋市）新任
幹事　高橋 吉男（船橋市）新任
会計監査　加藤 哲男（流山市）
〈退任〉
会長　津田 正臣（千葉市）
副会長　羽田 亨（柏市）
幹事　大西 輝明（浦安市）
（参考）
平成二十七年度 顧問人事
〈新任〉津田 正臣（千葉市）
〈退任〉山本 茂穂（千葉市）

第19回帰国報告会

7月11日（土）13:30~16:50、浦安市国際センターで第19回帰国報告会を開催しました。 4人の帰国者の迫真の報告の熱気が一般市民を含む約55名の参加者に伝わり、エコ冷房がもどかしく感じられました。

報告会は定刻の1時半に村田幹事の司会で開会し、当会酒井会長の挨拶に続いて、来賓としてご出席いただいたJICA東京国際センター地域連携課課長 佐藤俊也氏、浦安国際センターセンター長 松本マツノ氏、青年海外協力隊千葉OB会会計監査 西村邦雄氏より夫々ご挨拶をいただき、帰国者の報告に移りました。

各報告者は周到に準備したパワーポイントを駆使して印象深い報告を行い、通例主催者が気をもむタイムキーピングも夫々完璧に進行しました。

各報告の紹介

本多孝治氏 「井の中の蛙アマゾンを渡る」

本多氏はブラジル北部赤道地帯のベレンでアマゾニア日伯援護協会にて厚生ホーム入居者と職員に対するレクリエーション指導を行ってきた。強盗、泥棒が頻繁にあり汚職も絶えず、その根底には「貧困」がある。しかし人々は明るく親切で、地域の人たちが心を許しあって和やかに暮らしている、日本と比べてどちらが幸せか、考えさせられた。 熱帯アマゾンに入植した日本人が苦労して胡椒の栽培に成功し、現在は日系4世が現地社会の中核として活躍している。人生で最も生きがいを感じた2年間であり、現地で自分の親戚に出会うという奇遇もあった。

中井邦夫氏 「ヨルダン大学で過ごした2年間」

2012年9月からヨルダン大学工学部に派遣、品質管理の指導を行い、具体的な手法を身につけさせることを重点とした。また、国内企業のコンサルテイングや研修コースの支援や公共機関である健康保険局の業務改善にも活動の範囲を拡げた。活動の最終段階で福島原発事故からの復興についての講演依頼を受けた。若干躊躇はあったが引き受け、ヨルダン原子力委員会から感謝の言葉をいただいた。最後に学生が立ち上げた５Sプロジェクトの指導を頼まれ、彼等が5Sの本質をとらえて自主的に活動して完成度の高い成果をあげたことが大変嬉しかった。

伊藤義博氏 「コロンビアでの生活と災害事情」

消防庁を退職、2013年1月にコロンビアのメデジン市役所危機管理室に赴任した。同市は盆地で土砂崩れや山火事等の災害が発生し易く、交通事故も多発するが、救急隊員の訓練度が低く実践的な技術が身についておらず、用具類の日常的な整備の習慣もなかった。何が出来るかを自ら考えてもらうことに重点を置き、地道な活動を続けた結果、災害現場で最も重要な安全管理の意識と手法定着の必要性を理解するまでに成長した。今後の維持を期待している。（参考）「JICA's WORLD 2013年9月号」（JICAのホームページで参照可能）

野崎昌宏氏 「やったぞ、大改革！」

2012年1月にホンジュラスで最も大きな養護学校に障害児教育の指導で派遣され、算数と体育の授業を担当した。型どおりで一方的だった授業に地道な改善を重ねたが、効果が現れ始めたころ治安悪化し、2013年5月に隣国のニカラグアに移動した。

ニカラグアでは児童数25名の小さな養護学校に配属された。ここでも障害児教育の基本がなく、生徒たちは放任状態だった。生徒一人一人に対応した指導を実地で示す他、教師の研修会を重ねて理解を深めてもらい、半年間の任期延長が認められて、それなりの達成感が得られた。

出前講座実施報告（2015年4月～2015年9月）

麗澤大学　国際協力演習Ⅰ

7月1日（水）9:00～10:30

講師　中村時夫会員

麗澤大学（柏市）での授業は今年で3年目になり、1年生50名を対象に３回の授業を行う予定です。第1回目は中村時夫会員が「パラオのすてきな人たち」と題して授業を担当しました。

授業の導入部で島の歴史、この国が戦争にまきこまれた状況、統治下時代の日本との関わりをじっくりと説明し、今も使われている日本語等をクイズを交えて紹介しました。続いてボランテイアの主な活動であった小学校教育の状況を具体的に語り、算数の九九を教えるのに島全部の生徒だけでなく先生も試験したことや、優秀な生徒に「九九ができたTシャツ」を配布した等、発展途上国での学校教育の苦労や改善の方策を具体的に紹介しました。学生たちはこの夏休みにミクロネシア連邦を訪問する予定とのことで、授業への取り組みも真剣でした。

教員の経験を持つ中村会員は、小学生対象の出前講座の人気講師の一人ですが、大学生対象の講座に取り組むにあたってどのような準備をしたか、授業の進め方にどんな工夫をしたかなどを尋ねてみました。

中村会員のコメント：　私の授業は学生とのやり取りを中心にしています、ですから事前に、南の島々が日本の統治だったのはなぜか？ミクロネシアや私の活動したパラオ共和国が日本の統治だったのはいつごろか、日本人と現地の人たちとのつながりはどうだったのか？事前にプリントの下調べを課題として提出してもらいました。

授業は学生の皆さんに調べた内容を発表してもらいながら進めました。パワーポイントの写真を80枚ほど見せながら、パラオの人たちの様子、学校生活、食べ物、観光地としての活動、私の活動の内容、パラオの人たちとの交流などを説明しました。残りの10分で学生の皆さんからの質問や今日の授業の感想なども書いていただき、後日受け取りました、多くの学生さんから、是非力を付けて海外で活動したい等の力強い感想が寄せられました。

市原市　加茂葵大学　出前講座

7月16日（土）

講師　阿部清司会員　紀美子夫人

加茂葵大学は市原市加茂公民館で開かれる市民講座で、中高年受講者40名を対象に、阿部清司会員と同伴家族の紀美子夫人が「アルゼンチンにおける海外ボランテイア体験」と題して講座を担当しました。

阿部会員のアルゼンチンでの任務は、大学院での"日本政治・経済の教育"でしたが、日本の情報が無い国で授業をするためには学生と同じ目線での考察が必要で、両国の共通点と相違点を討論することから始める必要がありました。今回の講座でも、"アルゼンチンに有って日本にないもの、日本に有ってアルゼンチンに無いもの" をまとめた11ページの資料が配られ、ハカランダ、氷河、アコンカグア、イグアスの滝、自動販売機、カーナビ、資源小国等々、動画や音も使って、両国の生活や国民性、自然の違いを受講者に理解してもらいました。この中で、日本の良いところ、悪いところ、アルゼンチンの良いところ、悪いところが浮き彫りにな りました。

同伴家族の夫人も具体的な生活情報を説明しました。講座のまとめとして、『国際交流では言葉はコミュニケーションの手段に過ぎず、真心を持って接すれば心と心が通い合う。国際的な共同の仕事で大切なのは本音であって建前ではない。大切なことは謙虚さである』、と結論づけました。

特集： 出前講座、3年間の歩みと新たな展開に向けて

当会ではシニア海外ボランティア（SV）の体験を地域の集まりや学校などで発表する「出前講座」を会の重要な活動と位置づけ、創立当初から積極的に取り組んでまいりました。活動の様子は本誌や当会のウェブページで都度レポートしてきましたが、本特集では平成24年度から26年度の３年間の実施データを基に活動をふりかえり、更に充実した出前講座をご提供できるよう、新たな工夫をご提案したいと思います。

１．どこで出前講座を行ってきたか？

当会の出前講座の開催場所は、大別して公民館等、小・中・高校、大学の３つに分類できます。右の表は夫々の場所で行われた講座の件数と、延べ受講者数を示したものです。集計結果を見て、3年間で4千名近い受講者に私たちのSV体験を聞いていただいたことに改めて驚きを覚え、今後の活動に勇気を得ました。

開催場所			延べ受講者数	
公民館等	32件	40%	991名	25%
小・中・高校	21件	27%	2,072名	53%
大学	26件	33%	862名	22%
計	79件	100%	3,925名	100%

２．どんな講座を行ってきたか？

講座は主催者側のご希望によってテーマと講座のタイトルが決められます。どの講座も講演者のSV体験がベースで、右表の全ての要素を含むケースが殆どですが、あえて重点が置かれたテーマで分類すると右の表のようになります。

任国事情	活動した国の地理、歴史、文化、風習など	41件	52%
異文化理解	日本との比較など異文化理解をメインに	18件	23%
SV体験	SV応募の動機、訓練、現地での仕事をメインに	13件	16%
国際協力	ODAの理解、具体的活動をメインに	4件	5%
シニアライフ	シニアの生きがいをメインテーマに	3件	4%

３．講師はどんな人たちか？

講師は当会会員で、JICAが公募して厳しい人選と訓練を行い、派遣国で任務を全うして帰国した人ばかりです。その中で、出前講座を意欲的に引き受けたいと願って講師登録を行った人の中から、その講座に適任の候補者を推薦します。現在講師登録している講師の派遣国は右表のとおりです。また現地での任務も多種多様です。任地あるいは専門分野を指定しての要請にも応じています。

地域	派遣国（50音順）
アジア	インドネシア、カンボジア、タイ、ネパール、ベトナム、ブータン、マレーシア、モンゴル、ラオス
中東・アフリカ	ケニア、シリア、チュニジア、ヨルダン
大洋州	サモア、トンガ、パプアニューギニア、バヌアツ、パラオ、フィジー、ミクロネシア
中米	エルサルバドル、コスタリカ、ドミニカ共和国、ベリーズ、ホンジュラス、メキシコ
南米	アルゼンチン、エクアドル、コロンビア、パラグアイ、ペルー、ボリビア

４．出前講座の実際

① 公民館等での出前講座：

公民館等が企画し定期的に開催する成人講座等に講師としてお呼びいただくスタイルです。現在8市で実施中で、毎年リピートして派遣要請を受けるケースも増えています。クラスの人数は11名～84名と様々で、講座のテーマも異文化体験に留まらず、シニアの生きがいがメインテーマの場合も少なくありません。また、ロータリークラブの月例会や地域のシニア仲間の集まり等、少人数の集まりに呼んでいただくケースもあり、今後は急な派遣要請にもお応えできるよう、体制を整えて行きたいと考えております。

② 小・中・高等学校での出前講座：

学校での出前講座は講師にとって特別の意味があります。自分の孫の世代に何をどう伝えるか、授業の準備に熱が入り、授業中の生徒の反応が気になり、想定外の質問にも緊張しますが、一度経験すると次回が楽しみになります。そんな授業を3年間で21回、2千名を超える小・中・高校生を対象に行ってきました。

授業ではパワーポイントを使っての任国事情と異文化理解がメインですが、現地から持ち帰った衣装や産物などの現品を示しながら進める授業が喜ばれるようです。また「水」をテーマにした授業や、生徒たちに将来の進路を考えさせる授業に講師として呼ばれるケースもあり、会員の幅広い知識と人生経験も重要なリソースです。

学校教育の現場で余裕がなくなり、外部講師を招いての課外学習に時間を割き難くなっていると聞きますが、日本が世界に存在感をしっかり維持し、若い世代が世界で活躍する上で、異文化や国際協力についての学習の重要性が減って良いとは思えません。何らかのかたちでSV体験を生徒たちに伝える機会を維持したい、その為に打つ手は何か、具体的に考えて実行してゆきたいと思います。

③ 大学での連携授業：

千葉大学、麗澤大学で連携授業を担当し、SV活動で体験した地域事情や国際協力の現場を学生に伝えてきました。また放送大学でもスクーリングで社会人学生に対して同様の授業を担当しております。学生の海外への関心低下はこの国の将来にとって大きなマイナスになります。海外で活動することのやりがい、面白さを伝えることは、海外で活動し生活した経験を持つSVが最も適役と自覚し、活動の場を更に増やしてゆきたいと思っております。

出前講座をもっと気軽に！ ミニ出前講座歓迎！ ぜひお声をおかけください。

どこでも出前します！

これまでの当会の出前講座は、公民館のシニア講座や学校の授業など、公的な講座に講師として呼んでいただくケースが殆どでした。今後は私的なグループの勉強会等にも気軽に呼んでいただき、より多くの皆様に当会の出前講座をご利用いただきたいと考えています。テーブルを囲んで対話形式で進めることができれば内容が一層深まり、講師にも新たな気付きが生じ、お互いに啓発される事を期待しています。

出前講座の費用は？

当会の出前講座は会員のボランテイア活動で、講師料をいただくことが目的ではありません。交通費や資料コピー費など、ご配慮いただける範囲で支弁いただければ有り難く思います。更に当会と講師の活動をご支援いただく意味で、若干の講師料を予算化していただければ嬉しく思いますが、ご事情によって「手弁当」でお引き受けすることも少なくありません。どうぞお気軽にご相談ください。

ミニ出前講座の例：

- ＊ 地域のシニアの集まり、月例会・勉強会
- ＊ 旅行同好会、語学研修サークルの集まり
- ＊ 職場の海外事業検討会、異文化勉強会
- ＊ 小・中・高校の課外授業、子供会の集まり
- ＊ 大学のゼミナール、サークルの勉強会、文化祭

出前講座のお問い合わせ先：

＊ 千葉県JICAシニアボランテイアの会
出前講座担当 白鳥貞夫 04-7133-4370
info@chibajicasvob.sakura.ne.jp

＊ JICA千葉デスク 和泉澤 浩
043-297-0245
jicadpd-desk-chibaken@jica.go.jp

任 国 事 情　再派遣中の会員・帰国した会員のホットな現地情報です

エチオピア

学びと感謝

小松秀世

給水施設計画　2012年１月～2014年１月

帰国後早1年半余、任国での様々な記憶が時折脳裏をよぎり、かの地へ連れ戻してくれる。

【自然環境】 エチオピアへ向かう機内では、窓下風景の投影サービスが紅海から開始され、初めてのアフリカに些か興奮気味に見入っていたが、僅かに山頂境界の筋状の林を除けば森林らしいものが殆ど見当たらない事に気付いた。主食のインジェラはイネ科のテフの発酵食品。そのテフは痩せ地でも生育可能な半面、軽い細粒子状穀物で生産効率は極めて低い。近年の人口増加に相応し森林伐採により山野に栽培地を拡張し続けたと見られ、周辺国へ流れ下る河川やブルーナイルの源流として知られているこの国の緑豊かな自然はすっかり姿を変えてしまっていた。最近の度重なる干ばつ飢饉はこうした森林破壊の結果と推量される。根本策としては、より収穫・生産性の高い主食産物への転換が期待されるが、業務上は森林の水涵養機能、植樹法改善のアピールを課題とした。

【独自宗教：エチオピア正教】 赴任地最初の祭日テムカット（神現祭）、白衣装に身を包んだ老若男女は街中を行進後広場に集い、司祭の祈りと共に人々はひざまずき大地に額を付けて祈った。また、教会の外観はとんがり屋根は見当たらずモスクに似て丸く、どこかに十字架を見つけてキリスト教の教会だと気付く。断食は年間227日にも及ぶ。ここではかぶり物が白か黒かだけで、ムスリムとの区別が安易ではない。他宗教、特に622年イスラム発祥後は各所で激しい抗争繰返しの歴史の中で両者の同化も進んで来たものと思われる。

国民の過半数が正教信者ながらイスラム教徒も3割強存在し、80にも及ぶ民族が共存する連邦制国家、国境問題等紛争の絶えない周辺7ヶ国に囲まれた内陸国ながら、ここでは異教徒・民族が融合した日常生活を送り目立った対立は窺われない。伝統ある歴史を誇る独立国、アフリカの先導的立場で諸抗争の解決・沈静化にその潜在能力を発揮して欲しいと願っている。

【国民性】 給水率向上が国家的課題の一つである中、井戸を作る上で生産効率・寿命に致命的影響を与える大きな間違いのある事が既存資料から判明し、導電率の解釈上で地表・水中の混同誤認が原因でその是正が急務と判断された。適時資料持ち回りで局内説得に努め、改善の為には作井指導者側である水資源省やJICA側理解が重要と考え、その方面への説明に注力した。エ・日を問わず各専門家の反応は一様に、初めは幾分見下し態度、内容に理解が及んだ段階では「理解はしたが、自分は井戸検層の専門家ではないので…」と具体策への流れは創出できず、長年継続した組織の手法や考え方を正誤論で一気に変更を求めるのは容易ではない事を知った。2年の努力は「糠に釘」と些か自嘲気味だった帰国直前の土曜日、電話で呼ばれ駆けつけた昼食会場では主要局員が集い感謝状と記念品贈与の儀式が用意されていた。真摯な呼掛けは届いていた！人々の思いやりの気持ちに接し、充実感と感謝をもって任を終えた。

テムカット（神現祭）

ベトナム

ベトナム紹介

登内 明

職種：生産性向上　2015年6月～活動中

今年の6月からホーチミン市に滞在しています。今回はJICAシニア海外ボランティア（SV）でなく、日系の化学製品製造、販売会社の工場で生産性向上に関する業務を進めています。SV時代はジャマイカ国政府機関に配属され、任国の公・私企業の生産性向上を指導科目としていました。帰国後ホーチミン市に工場を持つ企業と御縁ができて、ここに来ることになりました。私にとってスペイン、米国、タイ、ジャマイカに続いて5か国、5回目の海外駐在になりました。以下、赴任後約2か月滞在の印象を述べます。

バイク天国

話には聞いていましたが、実際に体験して驚きました。バイク同士や車と「あうん」の呼吸があるようで、事故は滅多に起こりませんが、この呼吸を理解できない私には怖くて運転などする気が起こりません。毎日の通勤は運転手付きの会社の車、休みの日はタクシーを利用しています。

気候

バンコクやジャマイカのキングストンに滞在していたので、暑さには多少自信があったのですが、やはりここの暑さは身体にこたえます。タイと同様4月が最も暑くなり、日中で36℃まで上がります。夜間も30℃を超えます。今（7月下旬）はやや気温が下がったとは言え日中で33℃、夜間でも30℃程度です。身体が慣れるのにもうしばらく時間がかかりそうです。

食事

レタントンと言う市内の繁華な通りに、多数の日本食レストランがあります。一杯飲み屋のような店もあり、その雰囲気は日本と全く変わりません。値段は日本の１/２です。ベトナム食はどれも美味で、日本食よりもさらに安いので、自炊をする機会がありません。ボランティア時代に滞在していたジャマイカではほぼ毎日自炊していましたが、それと比べると雲泥の差です。恵まれた食生活に感謝しています。写真は知り合いのベトナム人の家に食事に招待されたときの様子です。床の上にお皿を直に並べ、皆そのまま座わって食べます。食材はカエル、ガチョウ、ウサギでした。

業務

こちらでの業務は、化学製品の生産現場の能率改善です。5S（整理・整頓・清掃・清潔・躾）やKAIZEN手法を導入し、生産性向上を図るということ。これはJICAでの指導科目そのものです。

ジャマイカでもSVとして改善指導やセミナーで講演を主体に5SやKAIZEN手法の普及を行ってきましたが、一社に対する指導ではなかったため、定着状況や効果などの確認が不十分でした。しかし今回は一社に集中しているので、進捗状況や効果の確認ができ、これらの手法を効果的に導入できています。全般的にベトナム国民は勤勉で、日系企業で働く者は日本の技術や手法を積極的に学ぼうとする姿勢が見られます。私が赴任して2か月弱ですが、すでに工場内の整理・整頓は進められ、従業員全員による設備清掃、工場内外の美化活動などが進められ、その浸透の速さに驚いています。一部の従業員は以前日系企業で働いていて、5SやKAIZENという言葉を聞いてはいましたが、実際に行なったことがない者が殆どのようです。そのような従業員たちが、興味を持ち積極的に動いてくれたのです。数か月以内に生産能率、品質、収益性などの面で数字上の結果が現れてくるでしょう。この状況を少しずつでも継続して行くことが今後のさらなるKAIZENになるはずです。

ホーチミン市の生活面、業務面での紹介をさせて頂きました。赴任後今日に至るまで、生活基盤の確立、業務の方向付けに奔走していました。今後は落ち着いてもっとベトナム人を知ることや、ベトナムの歴史、文化、習慣などを学びたいと思います。教えることだけではなく、自分自身が積極的に学ぶ立場になることも必要かと考えています。

ベトナム家庭の食事風景

ネパール

途上国の憂鬱と純朴さ

後藤　和徳

農業協同組合事業支援　2012年１月～2014年1月

この国には途上国が抱える課題や問題が山積している。2008年に王政が終わり共和制となったが、急遽制定した暫定憲法を改める筈の議会が政党間の思惑が合わず、未だに制定されていない。このため先進国も本腰を入れて援助や支援にはいれない。国家予算の執行率も30%台半ばという非効率な実態で、膨大な予算が毎年繰り越され、国家による富の再配分が機能していない。おまけにこの3月の大地震である。外貨を稼ぐ柱だったヒマラヤ観光は大打撃を受け、ただでさえ悪かった幹線道路沿いの使い古したバスとトラックの貧弱なロジスティックシステムはズタズタになった。加えてこの国のやる気のある人達は海外に活路を見出して積極的に出稼ぎに行く。国や役人は国内に仕事を作れないのである。

ネパールでは通常９月半ばに雨季が明ける。雨季が終わればこの国の人達の心は浮き立つ。10月にダサインという日本の盆と正月が一緒に来たような国家行事的なお祭り（収穫祭）が15日間も続く。もちろん役所は全国的に休みで、多くの人達の里帰りで首都カトマンズの町は静かになる。これが終わると11月に1週間程度のティハール（光の祭典）が続く。とにかくこの国は年中お祭りだらけで休みが多く、総じて男たちは働かない。誰か一人稼いでいれば大家族で寄り添って食べていける。この国では未だに60%を超える人達が農業に従事している。カトマンズを出て田舎に向かうと、山の上から下まで見事な段々畑が続いている。彼等は家族だけで孤立して山中に住むことを恐れない。牛、豚、鶏などを飼いながら、トウモロコシや稲作、果樹（放任）栽培など、自給自足で生活している。そして女性たちはよく働き、強い。10年ほど前までは女性の平均寿命が男性より短い唯一の国だった。細い山道・農道を上下するのは毎日のことで、とにかくみんな健脚なのだ。

カトマンズから東へ150Kmのシンズリ郡は、ネーブルオレンジの仲間のジュナールというとても美味しい柑橘類の一大産地である。ここに月1～2回ジープをチャーターしてフィールド調査や農家指導をしてきた。もともと果樹栽培に人手をかける習慣がなかったネパールだが、1980年代からJICAの園芸作物振興プロジェクトで、日本のカラタチを台木とした接ぎ木苗による柑橘栽培が定着した。農業をやっていれば大家族で食いっぱぐれないということが、この国の祭りの多さと、農家のおじいさんやおばあさんの純朴な笑顔や、子供たちの底なしの可愛い笑顔に反映している。

桁違いに懐深いヒマラヤの山々や谷々が多くの民族が生きることを可能にし、多くの言語を生み出している。いつも新たな発見があり飽きない国である。

ライチ農家の庭で

カンボジア

初めてのボランティア活動・戸惑いの中で

徳田　稔夫
土木工学　2013年3月～2015年3月

任国カンボジアの事情の一端を感じていただけたらと、印象に残ったこと、人々の暮らしについて、的外れ、勘違い、言い過ぎなど恐れずにコメントしたいと思います。

「停電」：赴任当時毎日2度ほどの停電があった。元々電力供給不足なので、政府が意図的に地区・時間を定めて停電させているのだとのことでしたが、真偽はわかりません。確かに首相官邸近くに住むSVの家では停電がなかったようです。また昼間のエアコンを使う時のほうが、夜より多かったように思います。人々の不都合を考えてのそれなりの計画停電かとは理解しましたが。

停電の時は手持無沙汰なので、私はよくアパートの屋上で空を見たものでした。首都にもかかわらず空はすっきりしていて、日本では信じられないような星のシャワーが降り注ぎます。私の大好きなオリオン座のミリオン三星も光っています。このときはたまた宇宙に思いをはせて、いろいろ止めどもなく、脈絡もなく考えます。

（１）ただひとつ確かなこと、「この宇宙に、この地球に、大切なあなたがいて、ボクがいること」、ボクの人生にシンコペーション的アクセントを与えてくれています。 あなたとボクのつながり、かけがえのない愛おしいつながり、それは必然のつながりと信じること。

（２）「我われはどこから来たのか、我々は何者なのか、我々はどこへ行くのか。」 アメリカ　ボストン美術館で見ることができるポール・ゴーギャンの絵の問いかけは、ボクたちの永遠の問いかけです。自らの存在を問うてきたボクたちは、ボクたちを生んだ宇宙にも問いかけています。 ボクたちがこの宇宙に生まれてきたのは、偶然かも知れない、答え は分からない。 永遠に分からないかもしれない。否、必然だったとボクは信じたい。 宇宙の中で、「いのち」はどのように生まれ、進化してきたのか。 宇宙を考えること。それはとりもなおさず、ボクたちを問うこと、ボクを問うこと。

「ポルポトの大虐殺」 カンボジア行けば、否応なしにポル・ポト時代**の**傷跡に向き合うことになります。1975年、クメール・ルージュ（ポル・ポト派）が政権の座に就き、急進的な共産主義政策を推進するあまり、強制労働や組織的な虐殺などで国民の実に1/4とも言われる人々を死に追いやりました。市内にあるTuol Sleng Genocide Museum（トゥール・スレン虐殺博物館）に掲げられた処刑前に撮った写真は、まるで卒業写真の一コマのように、一人一人の目が、無表情、無機質、無感動、放心、寂寥などなど。見る者は全身を射つくされ、金縛りになります。

このジェノサイドが起こったのは1975年、たった40年前と言うこと、私と同じ世代の生き延びたカンボジアの人たちは、どんな形であれ虐殺に関わっていたようで、日常の会話の中で外国人たる者にとって話題にするのはタブーでした。現在でも特別法廷で、２被告ヌオン・チア元人民代表議会議長（88）とキュー・サムファン元国家幹部会議長（83）が裁かれています。

トゥール・スレン虐殺博物館

フェスティバル　地域の国際交流フェスティバル参加のレポートです

国際フェスタCHIBA

於：海浜幕張　神田外語大学1号館（2015年5月24日）

国際クイズの様子

この催しは（公財）ちば国際コンベンションビュロー主催、JICA東京共催で毎年行われるもので、当会は協力団体としてブースを開設し、各種資料配布、活動 写真パネル展示、国際クイズ（スタンプラリー）のステーション、海外シニアボランティア相談を行いました。

国際クイズには80人を超える来場者があり、フェアトレードのチョコレートによる募金活動も完売しました。当会から酒井、坂出、村田の３役員と酒井徳子家族会員が参加し、切れ目のない来場者に忙しく応対しました。

浦安市国際交流・協力フェスティバル2015

於：新浦安駅前広場（2015年6月13日）

当会のブース

真夏を思わせる暑い一日、ステージでは浦安高校ダンス部のダイナミックなダンスを皮切りに、韓国、ブラジル、タイ、ガーナの歌と踊りの国際色豊かなパフォーマンスが続きました。会場では15団体がブースを開設し、当会は酒井、加藤、鈴木の３役員が参加し、会の概要、出前講座資料の配布、パネルの展示などを行い、国際ボランテイア活動のアピールに努めました。当会独自の国際クイズにも多くのチャレンジがあり、７月11日に新浦安で開催予定の当会主催の海外ボランテイア活動の報告会にも強い関心が寄せられました。

会　員　随　想　会員の近況や思う事を寄稿してもらいました

平成27年春の褒章受章

犯罪人更生活動と剣道人生

山野邊恭夫

私は2001年チリ派遣のJICAシニア海外ボランティアOBで、現在は柏地区保護司会会長をしています。保護司は、法務大臣の委嘱を受け各県の保護観察所長の指名した民間篤志家で、刑務所からの出所者の住居確保、再犯防止、就業・自立支援等の更生保護活動を行います。

本年4月28日に新聞報道された平成27年春の褒章受章者675人の中に私の名前がありました。褒章は社会や公共の福祉、文化等に貢献した民間人を顕彰する国の栄典制度で、紅・緑・黄・紫・藍・紺の6種類があります。活動分野で分かれ、私は法務省管轄にある保護司活動で藍綬褒章を受賞しました。

5月15日午前に法務省で褒章伝達式があり、国璽詔書と記章を受けたのち皇居に向かい、新年一般参賀で皇族方がお立ちになる豊明殿に、配偶者を含め約800名が入場整列しました。私は最前列の陛下お立ち台のすぐ前で真近から拝謁し、「このたびは、公共および国のため永年尽力され、本日栄誉ある受賞をされました。これからも健康に留意して、社会のために尽くされるよう願っています」とのお言葉を賜りました。式後に菊の紋章つき和菓子折りと皇室写真集を拝領しました。

私は昭和38年に社会人になりましたが、大学時代からの剣道を丸の内警察署と港区スポーツセンターで継続し、同時に居合道を修業しました。平成12年に退社と同時にJICA海外ボランティアに応募し、平成13年４月南米チリ国に赴任して、２年間剣道と居合道を指導して平成15年４月に帰国しました。

本年（2015）５月、27カ国が参加して日本武道館で行われた第16回世界剣道大会で、チリは剣道後進国ながら大いに活躍して注目を集めました。チリで共に汗を流した選手・スタッフ・応援団が30人も来日して旧交を温め、大会後、希望者を東京・京都・奈良に案内しました。

これからも、①保護司活動を通して犯罪のない安全な社会つくりと、②剣道を通して国際親善に尽くしたいと思っています。

JICAボランティア千葉県庁表敬訪問

3月19日、平成26年度4次隊の派遣を前に、千葉県出身の青年海外協力隊員、シニア海外ボランテイアが千葉県庁を表敬訪問し、鶴巻郁夫千葉県総合企画部長より激励を受けました。シニア海外ボランテイアはカンボジア、ガーナ（2名）、ウズベキスタンに派遣される4名が参加されました。またコロンビアから帰国したシニア海外ボランテイア1名も参加、帰国者を代表してご挨拶されました。

6月24日、千葉県出身の青年海外協力隊員、シニア海外ボランテイアが平成27年度第1回目の千葉県庁表敬訪問を行いました。今回は青年海外協力隊員14名とシニア海外ボランテイア5名が参加、JICA東京国際センター佐々木十一郎所長の挨拶、諸橋省明千葉県副知事の激励の祝辞につづき、帰国者代表として当会会員の浦木仁氏が決意と謝辞を述べました。

挨拶するJICA東京国際センター佐々木所長

JICAボランティア秋募集説明会

JICAシニア海外ボランティアおよび青年海外協力隊の秋募集が10月1日に始まります。募集説明会（体験談＆説明会）が右記のとおり開催され、パネリストによる体験発表、よろず相談があります。両日ともシニア海外ボランティア、青年海外協力隊を合同で行います。申し込みは不要で、会場に直接お越しください。

- 10月20日(火) 19時～21時
  船橋フェイスビル 6階 きららホール
  （JR船橋駅南口、京成・東武各線船橋駅 徒歩1分）
- 10月24日(土) 14時～16時
  千葉商工会議所 14階 第１ホール
  （JR千葉駅、京成千葉線「千葉中央駅」 徒歩10分）

JICA千葉デスク便り

「国際協力パネル展」のご案内

青年海外協力隊50周年を記念し、JICA千葉デスクではさまざまな企画を実施しています。その中の一つ、「国際協力パネル展」をご案内いたします。本パネル展では1965年に派遣された初代隊員のメッセージ・、当時の写真をはじめ、歴史年表や現在千葉県から派遣中の隊員18名の活動写真を紹介しています。入場無料です。

そごう千葉店で既に実施済みですが、今後以下の日程で開催を予定しています。お近くへお越しの際は是非お立ち寄りください。

- イオンモール幕張新都心 GRAND MALL ホビーコート
  2015年9月28日～10月4日 10:00～20:00
- 成田国際空港 第一ターミナル NAAアートギャラリー
  2016年1月27日～2月16日 6:00～22:00

JICA千葉デスク 和泉澤 浩
TEL:043-297-0245
E-mail: jicadpd-desk-chibaken@jica.go.jp

編集後記

新年度が始まり、帰国報告会などでバタバタしながらSVニュースの編集スケジュールを組みました。不慣れなために、編集中に誤字・脱字の類を混入させたかもしれません。

編集委員になるまでは「季刊でも良いのに」などと思っていましたが、原稿の依頼から発送まで約5か月以上かかり、現状の年2回の発行が限界なのだということを痛感しました。

今回は特集記事として「出前講座、3年間の歩みと新たな展開に向けて」を掲載しました。年2回の発行なので種々の制約はありますが、今後も当会の活動に資するテーマを設けて特集を組んで行ければと思います。弊会のホームページ（URLは欄外下部参照）でSVニュースの全バックナンバーをご覧いただけますので、ご利用ください。 （鈴木伸一）

主な行事予定

当会開催・参加予定の行事です。奮ってご参加ください。

- 成田市国際市民フェスティバル 2015
  平成27年10月4日（日） 成田市民文化会館
- ちば生涯学習ボランティアフェア2015
  平成27年11月17日～23日 千葉市生涯学習センター
- 第13回定例会
  平成27年12月5日（土） 浦安市国際センター
- 第20回公開講演会
  平成27年12月5日（土） 浦安市国際センター
- ちば市国際ふれあいフェスティバル2016
  平成28年2月14日（日） 千葉市きぼーる